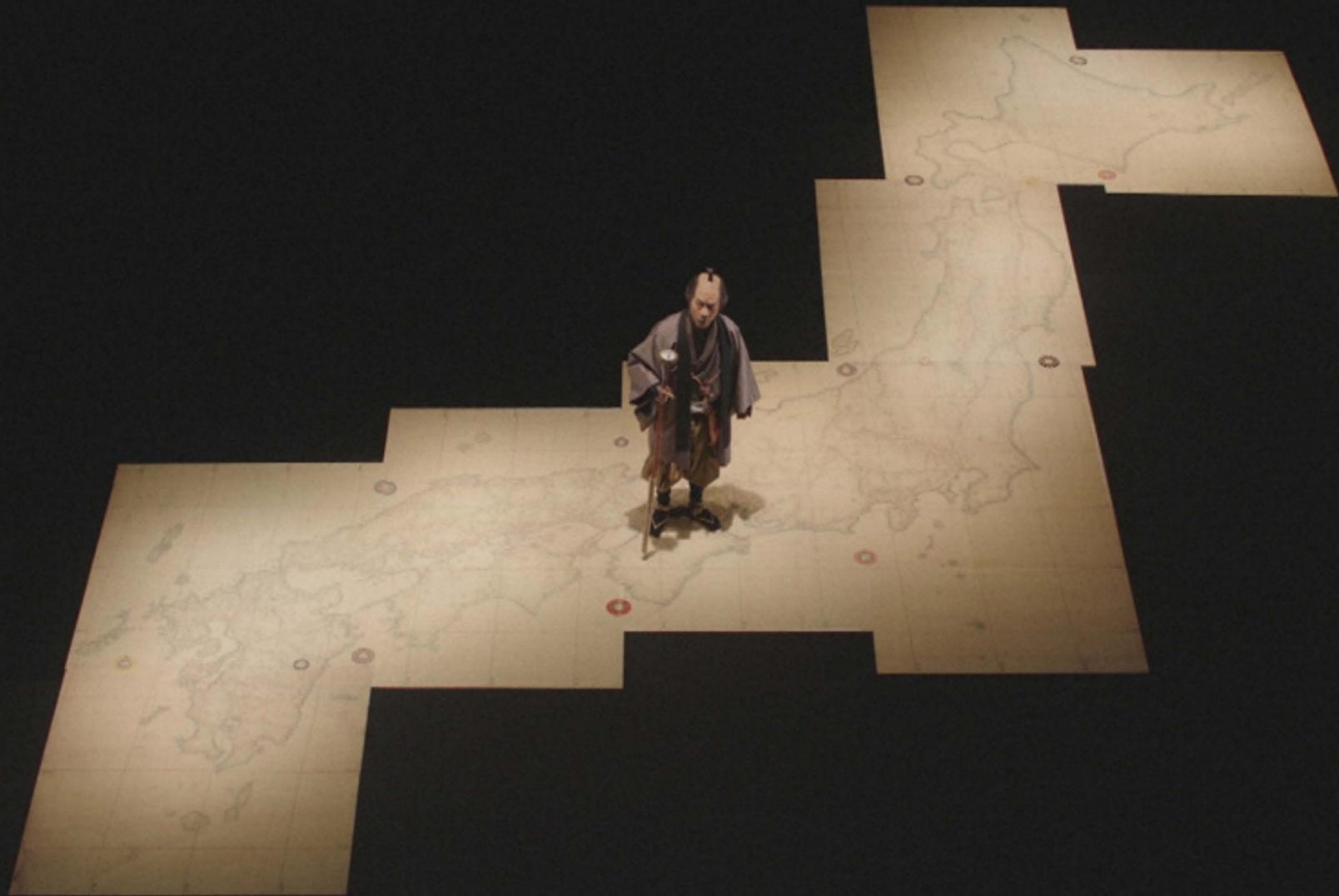


12月22日の放送

地球という星をつかめ 伊能忠敬



江戸時代に精密な日本地図を作ったとして有名な伊能忠敬（いのう・ただたか）。実は忠敬にとって地図作りよりも大事な目的が存在した。それは、天文学として地球の大きさを正確に測る事だったという。

伊能忠敬（1745-1818）は千葉県佐原で造り酒屋を営んでいたが、子どもの頃からの夢は天文学者になる事だった。50歳で隠居してから本格的に天文学に打ち込むようになると数々の天体観測機器を自費で購入。その実物や観測記録が、佐原の伊能忠敬記念館には今も残されている。分析から忠敬の観測が現代の天文学にも引けを取らない精度を誇り、その天文知識が無ければ精密な日本地図は作れなかったことが分かってきた。

番組は、それらを仔細に見ていきながら再現ドラマを加えて、伊能忠敬の天文学者としての姿に迫る。まもなく没後200年。江戸時代という限られた知識と技術の中で、人がいかに「自分がいる地球や宇宙について知りたい」ということに情熱を傾けてきたか。伊能が作った日本地図を広げ、4K高精細映像で描き出す。

放送日時

12月22日（木）午後10時00分～

1月5日（木）午前0時00分～（再）